

『かたして…』

谷頭に来てすぐのことです。ブランコに並んでいた3歳児(ひまわり組)の男の子が、「かたしてって言ったのに、かたしてくれん…」と訴えてきました。相手の4歳児(ゆり組)の男の子が「ちゃんと並んでないから、かたせんのよ！」の弁。片方のブランコが空いたため、乗ることができたのですが…。

この『かたして…』という言葉は、都城地域(旧薩摩藩)の方言です。昭和から平成の始めくらいは、園の子ども達は、「かーたして♪」とわらべ歌のように、節をつけて遊びの中に入っていました。しかし今ではこの言葉を使う子どもはいませんでした。それもそのはずで、20代の保育士が知らなかったからです。私はこの言葉が好きで、何とかおおむたの子ども達に浸透させようと試みたのですが、広がらなかった経緯があります。

その週のカンファレンスで、この言葉が話題になり、谷頭の若い職員も、「片づけると言う意味かと思いました」とのこと。20代30代でも知らない職員が結構いるのに驚きました。

この言葉は、きっと谷頭こども園の子ども達の間で、自然と伝承されてきた言葉なのでしょう。現代では、大人も方言を避けたり言い換えたりしがちです。しかし、この土地ならではの方言は、素朴で温かみがあります。こんな素敵な『かたして』が受け継がれている子ども達に親しみを感じ、素敵だなと思うことでした。今日も子ども達の『かたして…』が園庭のあちらこちらで飛び交い、癒される毎日です。

『寝ていて人を起こすことなかれ』…大人がモデル

トレセンに入る信号の角に『寝ていて人を起こすことなかれ』と書かれた碑文と胸像のことが、通るたびに気になっていました。異動してすぐ近所を散策し、改めて碑を読むことに。この言葉を残した人物は、石川理紀之助。明治時代の農村指導者でその生涯を貧農救済に捧げ、この言葉を残したことで知られているのです。調べてみると明治35年、無給で山田町に出向き6ヶ月にわたり、貧農にあえぐ人々に読み書きを教え、農業指導に尽力し自立へと導いたとありました。その教えを受け継ぐべく出身地の秋田県秋田市や湯上市と都城との間で教育交流などが、行われているそうです。

この言葉に強く惹かれたのは、私達社協3園が取り組んでいる教育保育の中で、職員のあり方そのものを表す言葉であると共感したからです。園では、保育士は子ども達の「モデル=手本」になることを常に課しています。

いくら環境が整っていても大人が行動で示さないと子ども達の遊びは広がりません。例えば竹馬や剣玉。挑戦して欲しいからとただ置いておくだけでは子どもの挑戦心は揺らぎません。だから大人が竹馬に乗ってみせるのです。剣玉の凄技をしてみせるのです。「すごいな〜。僕もあんなふうに歩いてみたい!」「〇〇さんってカッコいい!」それが子ども達のモデルとなり、挑戦心に火がつけます。これは、遊びだけではなく片付けや優しい言葉づかいなどもそうです。「片づけなさい!!」の言葉だけでは子どもは動きません。保育士が片づけてみせて、きれいにすることを示すのです。

口だけではなく行動で示す。それが人を動かす。保育と同じだなーと思います。恥ずかしながら私は、石川理紀之助を全く知りませんでした。平成30年夏。決勝で大阪桐蔭と戦い、最後まで甲子園を沸かせた秋田県立金足農業高校のグラウンドにはこの碑文が建ち、同校の教育方針となっているそうです。先人の教えの基に私達は今を生きていることを意識せずにはおられません。

谷頭に異動になり、たくさんの戸惑いの中で、『かたして…』と『寝ていて人を起こすことなかれ』の言葉に触れたことは、保育者として替えがたい何かを教えられたような気がします。

『木を植えるということ…』

保護者や地域の方から「なんでこんなに木を植えるのですか?」と良く聞かれます。「運動会の時に邪魔になりませんか?」のご意見を受けたこともあります。**木を植える一番の理由は、暑いからです。**温暖化の影響で近年の夏の暑さは厳しく、身長が低い幼児は、地表にたくわえられた熱の反射をもちに受け体感温度は、大人より5℃~7℃高いと言われていました。園では、木陰で暑さから子ども達を守り、涼しい環境をつくりたい思いがあります。暑いからと、エアコンの効いた部屋ばかりで遊ばせるような教育保育はしたくはありません。日よけのシェードをいくら掛けても天然の木が放つ涼しさには敵いません。

2つ目は、季節の体感です。春は花が咲く。夏は実がなり鳥が啄む、葉は増々茂り虫が寄ってきます。時には蛇もやってきます。秋の紅葉や落葉…。冬には、枯れたように寒さに耐える木や反対に照葉樹のように濃い緑を保つ木もある。そんな一年の季節の変化と不思議を感じて欲しいのです。

3つ目は、冒険的な遊びの体験です。どの公園に行っても登って良い木など1本もありません。山や森に通い、基地を作り木登りをした経験は、昭和の時代に育った私達世代が最後でしょう。繰り返し挑戦して木に登れるようになるあの達成感。上からの景色…。世界が違って見えることでしょう。成功体験を積み重ねることで、自己を肯定する気持ちが高まっていくはずで

木を植える理由…。あんなに小さかった子ども達と木が、いつの間にか大きくなりそして卒園していく。庭の木々とともに成長する子ども達、素敵だと思いませんか?こども園の庭が子ども達の心と身体の故郷となるように、木を植えていきます。